

～ 【 ベンチから見た風景 】 ～

本年度の中体連(熊本市)が終わりました。大きな事故やケガがなく、3年生は無事に最上級生としての責務を果たしてくれました。入部以来、試合の引率、練習会場の確保、練習の見守り、部費の管理等、たくさんの場面で部活動を支えていただいた後援会、保護者の皆様、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

17日(金)から始まった中体連も昨日の水泳競技を持って、本校参加の種目は終了しました。今年は、子ども達の頑張る姿を間近で見ることができて、とても幸せでした。

特にソフトテニス競技には外部コーチ(?)としてベンチに入らせていただき、子ども達の試合に直接関わらせていただきました。

スポーツは何でもそうですが、ソフトテニスも見た目ほど簡単ではありません。普通にボールをラケットで打っても、コート内に入らず、そのまま遠くに飛んでしまいます。力強いボールを打って、なおかつそれをコート内に入れるためには、常に同じ高さでボールを迎え、それをラケットの中心でとらえ、振り抜いて強烈な回転をかけなければなりません。

しかしそれだけでも試合には勝てません。その程度の「技」はプレイヤーなら誰も持っているからです。できて初めてスタートラインに立てる、という、当たり前のことです。

それに加え、相手のいない、返球しにくいポイントにいかにか正確に返球するかが、勝敗を左右します。

だから中体連前にはその技を徹底的に練習します。何日も何日も、繰り返し繰り返し練習します。身体が無意識にそういう動作ができるまで練習します。

中体連本番。負けたら終わり。この膝は本当に自分のもの?とってしまうほど、ガクガク震えます。そして試合スタート。狙うべきポイントは分かっている。あとは相手が甘い、緩いボールさえ打ってくればそのポイントに狙いを定めて、打ち込める。さあ来い!

ところが相手も同じような、時にはそれ以上に過酷な練習に耐えてきた強者です。甘い返球なん



【バレー部：試合報告にきてくれました 素晴らしい試合でした】

て全く来ない。逆に甘いボールを自分が打たされて、相手に攻められる始末。いつの間にか負け始め、最後のゲームになってやっと渾身の一撃を打って、「やった!」と思ったのもつかの間、相手に攻められ、ゲームセット。そして負け。

結局、あれほど練習したのに、中体連で打てたのはほんの2, 3球だった。

結果的にこの2, 3球のために長くて辛い練習を重ねてきたということになります。

それではこの選手にとって練習の意味はあったのでしょうか、それとも無駄だったのでしょうか。

私は意味があったと自信を持って言えます。しかもとても大きな意味があったと言えます。練習の辛さ、苦しさも、その成果を発揮した1球さえあれば、それを決めた瞬間、達成感や充実感、喜び、感動等、これまでおそらく経験したことのない心の高揚感を感じたはず。そしてこれまでの苦勞なんてこの一瞬で吹き飛んだはず。

この経験は、この生徒の奥底でこれから先この生徒の人生を必ず支えてくれます。何か辛いことがあっても、あの時の思いがよみがえり、頑張れば何とかなる、と導いてくれます。

ソフトテニスだけではありません。それぞれの部活で、それぞれの試合中、この一球!この一打!この一射!を決めた、という経験をしたはず。その時の自分、その時の思いが一生自分を支え、導いてくれます。間違いなく。

何かに打ち込み、やりきるということは必ずそういう宝物を気づかないうちに手にできるものなのです。

そうした成長を支えてくれたお父さん、お母さんに改めて「ありがとうございました。」と言ってほしいものです。

中体連が終わり、今週から新チームによる練習が始まります。

まずは環境を整えましょう。部室、練習場、コートを手入れして綺麗に整理整頓。掃除、草取りからスタートです。環境づくりをしながら、一年後の自分をイメージし、先生方と共にスタートしてください。

やる以上徹底的に。中途半端は時間とお金の浪費です。

中途半端な態度で部活をやっている、自分を成長させてくれる宝物を手にすることはありません、決して。



【サッカー部：試合報告にきてくれました 合同チームで健闘してくれました】